

経営情報

■VOL. 1:平成19年12月 ■VOL. 2:平成20年7月

■VOL. 3:平成21年4月

■内容サンプル78. 長寿時代の花のある生き方

最近の後期高齢者医療制度の見直し議論を聞きながら、人生85年時代の「花のある生き方」を実現する方策の視点からもっと議論をし知恵を出して欲しいものだと感じましたが私だけでしょうか。

この60年余りで平均寿命が約30年伸び「人生85年時代」が到来するとともに、人々の価値観が多様化する中で、国民一人ひとりが健康で充実した暮らしを送れるようにするため、私たちが若い頃の人生設計のイメージだった、「20歳前後までは学校に通い、企業戦士として定年までひたすら働き、その後は年金生活で余生を過ごす」といった、「年齢で輪切りにする」ものを、これからの時代に真正面に向き合った、誰もが自分らしく幸せな人生を全うするという理想をかなえる上での、人生設計の「リ・デザイン」、つまり、仕事・生活・学び・遊び等について生涯現役の社会づくりを進めることが、より重要なのではないのでしょうか。

そのために、まず「しっかりした健康づくり」に心がけ、子どもの頃から、文化を学び他人に支えられていることを学びながら「自分づくり」に励み、若い頃から、何度でも学び、性別や年齢にかかわらず働き、世代を超えて交流する（私は手話で経験しています）、仕事と生活のバランスのとれた働き方を実現し、生きる知恵や経験を活かし、人のため「世間」のため役立つ生き方を探ることを政府も国民も一体となって盛り上げてはいかがでしょうか。